

平成24年度

公益財団法人丹後地域地場産業振興センター事業報告

総括的概要

平成24年4月1日から公益財団法人として再スタートをきり、基本となる規約・規程の整備、公益財団法人として求められるコンプライアンス及びディスクロージャーへの対応など新しい環境の整備を実施しつつ積極的な事業を展開した一年でした。

丹後を取り巻く環境は、各方面で積極的な観光客誘致の事業を推進しているものの海水浴、カニシーズンの入り込み客の減少に歯止めがかからず、入り込み客の消費額も減少傾向が更に進んだと言わざるを得ません。

このような厳しい経済・経営環境の中において、当センターの展示即売室も入り込み客の減少、販売額の減少が大きな課題となっています。

しかしながら、新たな実施事業として丹後の加工品・農産物等を首都圏を中心とする直売チェーン店で販売するなど地域外での販路開拓を積極的に進め、先進企業のノウハウの取得による丹後産品紹介、人材の育成、課題は残るものの販路の需要に基づく農産物の計画的作付け及び新規生産者の開拓など新たなビジネスモデル構築の端緒につくことができました。

以下、本年度の事業内容をご報告いたします。

I 新商品・新技術開発事業（公益目的事業1）

1 地域ものづくり支援事業

企業からのパッケージング、商品表示ラベルの表示方法等の相談を受け、商品開発、販路開拓の支援事業を実施しました。

また、京丹後市地域再生協議会に参画し農産品の高付加価値化を図るため、規格外野菜を使用したドレッシング製造を実際に体験してもらい、商品化の流れ、ホットパック等の品質長期化方法、パッケージングの重要性について研修を実施し、今後の特産品づくりの人材の養成と製品化力の向上を図りました。

II 人材育成事業（公益目的事業1）

1 販路開拓研修事業

京丹後市地域再生協議会に参画し、農産物等を販売するためのマーケティング研修を実施しました。また、地域生産物を集出荷する主体として設立したR e 丹後有限責任事業組合員のスキルアップを目的に、

同協議会において和歌山県の株式会社農業総合研究所の視察研修を実施しました。

2 地場産業の体験講座開催

研究開発棟を活用し、染色技術の習得による製品化を念頭に網野染色研究会茜の会員を対象とし年間を通じ染色技術の指導を実施した。

また、スキルを身につけた会員による観光客等を対象とした染色体験を随時実施し275人を受け入れしました。

地域の地場産業である着物の着用機会の増進を目指し、一人でも着用できる着物着付教室を京丹後市職業訓練校と共催で実施し、10名の指導を行いました。

手機体験については、上記網野染色研究会茜の会員を対象に、観光客等を指導する人材の教育を行いました。

Ⅲ 需要開拓事業（公益目的事業1）

1 丹後ブランド商品認定事業

（1）Tango Good Goods 認定事業

事業開始以来14年目を迎えるTango Good Goods 認定事業を実施し、製造者の「ものづくり」を奨励・支援し、販路開拓の意欲高揚を図るとともに、丹後ブランド商品のコンセプト確立とそれに基づくブランドイメージの定着化を図り、流通及び需要の拡大・開拓を推進しました。毎年改正される商品表示法については最新の状況を審査基準として採用し、認定品としてのコンプライアンスの指導を行い、アレルギー表示の他、着色料・保存料等の表記についても製造者の意識を高め、Tango Good Goods としての質的向上を図りました。また、認定品へのTango Good Goods ロゴシール貼付指導を推進し、地域ブランド商品としての差別化を図りました。

ア 認定状況

（ア）申請状況

申請者数40業者、申請商品数98点（再申請39点、新規申請59点）

（イ）認定状況

認定者数38業者 認定点数93点

通算（平成22年度～24年度）認定者数95業者、認定点数276点

（ウ）優秀産品表彰

優秀産品表彰制度は、認定品の中で特に優秀と認められる

ものを選定・表彰する制度で、本年度は4点が表彰されました。

イ Tango Good Goods 認定推進委員会開催

認定事業実施においては、認定推進委員会委員10名に就任いただき認定について協議いただきました。

(ア) 第1回Tango Good Goods 認定推進委員会
平成24年4月23日(月) 午後2時開催

(イ) 第2回Tango Good Goods 認定推進委員会
平成24年6月29日(金) 午前10時開催

(ウ) 平成24年度Tango Good Goods 審査会
審査員として専門家(デザイナー、食品アドバイザー、マーケティングアドバイザー)3名を委嘱し、審査会を開催しました。

審査会日時 平成24年6月27日(水)・28日(木)

審査終了後に全体講評及び商品個別相談を実施

ウ Tango Good Goods 認定品カタログの作成(B to B用)及びバイヤーへの配布

平成24年度認定品を掲載したカタログを作成し、見本市等でバイヤーへ配布しました。作成部数1,000部

(2) 平成24年度Tango Good Goods 認定商品人気投票

平成24年度認定品を一堂に展示し、人気投票を行い消費者に広く啓蒙周知し、丹後ブランド商品の販売促進と地域のイメージアップを図りました。

ア日 時 平成24年8月25日(日)・26日(日)

イ場 所 イオンモール京都五条 1階吹き抜けホール

(2) 第14回Tango Good Goods 見本市の開催

第14回目となる丹後ブランド産品見本市を京都丹後ブランド産品会との共催により宮津市において開催し、丹後ブランド認定商品を中心とした地場産品の地域内PR及び流通促進を図りました。

2 商談会出展事業

丹後産品の全国流通を目指し、国内最大のトレードショー「第75回東京インターナショナル・ギフト・ショー春2013」伝統とModernの日本ブランドブースに出展し、地域の魅力を基本としたVMDにより商談を展開しました。

3 京都丹後ブランド産品会の支援及び地域特産品販路開拓事業

T a n g o G o o d G o o d s 認定事業者のなかで地域外へも、その販路を開拓する意欲のある事業者で発足した「京都丹後ブランド製品会」の活動を支援し、新商品開発及び商品改良指導、販路開拓等の事業を実施しました。

(1) 主な事業

- ア 都市部での丹後のええもんうまいもん展の開催
- イ 展示即売会等の開催情報の提供
- ウ 中元カタログ及び歳暮カタログの作成配布

4 ICT人材育成・活用による丹後産品集積活性化事業

平成22年度に整備したシステムを活用し、R e 丹後有限責任事業組合を中心に、丹後産品の集積と販売流通開拓を実施しました。

また、日本最大の農産物直売チェーンのわくわく広場（株式会社タカヨシ運営）と提携し、首都圏を中心に9店舗に丹後産品を供給するルートを確認するとともに、わくわく広場のVMD技術を吸収し丹後産品をPRする人材の育成をあわせて行いました。

生産者に対しては、随時生産品を調査し売れる生産品の情報を提供するとともに、ICTシステムを活用するインターフェイスとなるスマートフォンの活用研修会を開催し、情報の共有、産品の出荷状況、発注の業務を円滑に進める指導を実施しました。

(1) スマートフォン講習会

- 日 時 平成25年1月30日（水）午後1時30分から5時
- 場 所 丹後地域地場産業振興センターコンピュータ研修室
- 講 師 当センター職員 上田祐貴
- 受講者 6名（登録生産者対象）

5 展示ギャラリー活用事業

地域でものづくりに励む、企業、団体、個人等の作品発表の場として、1階展示ギャラリーを提供するとともに、センター及びセンター出展者会による情報発信の場として活用しました。

6 京都「丹後・食の王国」ビジネス連携会議

丹後地域の農産物や加工品の市場評価を高めるとともに、新たな商品の開発や販路の拡大を関係者の連携の下、推進するため、新たに京都「丹後・食の王国」ビジネス連携推進会議を設立し、運營業務を行いました。

Ⅳ 情報収集・提供事業（公益目的事業１）

1 展示即売室即売動向情報収集分析提供事業

展示即売室における日々の顧客、商品、販売情報の収集に取り組み、販売データを分析、加工し新商品の開発、改良の基礎資料としてもらうため出展者へ毎月アミティ情報を発行しました。

消費者の購買動向、生の声を伝えることにより出展者の経営基盤強化及びセンターとの意思疎通を図ることができました。

2 センターホームページによる地域資源発信事業

地域生産者、消費者が手軽に利用できるタイムリーな情報を提供することを心がけ地域情報、センター情報、産品情報、広報等をセンターのホームページとして発信するとともに、消費者が直接丹後産品を購入できるECサイトを運営しました。

また、アミティ丹後及びホッと丹後のブログを開設し、身近な情報を提供することで、地域及びショップへの誘客を図りました。

3 アミティ丹後出展者会

アミティ丹後出展者会議を随時開催し、即売室情報を基に商品展示方法、企画展開催などの情報交換及び事業を行いました。

4 観光情報発信事業

(1) 当センターに事務局を置く、京丹后市観光協会と連携し丹後地域の観光情報を来館者へ提供するとともに、ホームページへの情報掲載、問い合わせ等に対する回答など入り込み客に対し利便性の向上を図りました。

(2) NPO法人アジア交流センター及びきょうと観光ICT促進協議会との連携により、インバウンドに対応した翻訳メディアの利活用を図りました。

Ⅴ 地場産品展示普及支援事業（公益目的事業１）

1 地場産品常設展示

当センターの重要な機能及び事業の柱の一つである地場産品のPRを

目的とする常設展示即売事業は、地域産品の総合展示場として「丹後ちりめん」をはじめ229業者の地場産品約2000品目に及ぶ製品を展示しており、来館者の注目も高く、観光関連業者からのご案内も数多くいただいています。

地域の観光資源としての機能強化を図るとともに、丹後を訪れる観光客をはじめ地域内外へも取扱品情報を発信するなど幅広く宣伝・啓発し、販路開拓とともに消費者ニーズの把握による需要拡大に努めました。

店舗における購買動向を分析することで、出展者の商品開発、改良に寄与するほか、センター事業の企画立案の基礎となっています。

また、店舗における商品の見せ方を工夫することで、商品の特徴、魅力をアピールするVMDに努め、出展者の商品の魅力発信力を強化するとともにバイヤーへのVMDを含めた商品提案を行いました。

2 丹後産品情報発信事業

消費者向けカタログ（中元・歳暮・通年の3種）の作成配布、ECサイトの運営を行い、丹後産品を全国に向け広く周知しました。

（1）エンドユーザーへの丹後産品のPR、新たな丹後ファン獲得を目指し、近畿地場産センターとの連携によるショッピングモールをポータルサイトとして、ECサイト運営を行いました。

（2）上記ショッピングモールと連動し、歳暮及び中元期の通信販売カタログの作成と配布、両期間以外の通年カタログの配布を行いました。

VI 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業（公益目的事業1）

1 丹後ブランドチャレンジショップ運営事業

大都市圏での丹後情報の発信、地場産品PRを推進することを目的とし、宮津市、京丹後市、与謝野町との連携により各市町の特産および地域PR、サテライト販売、生産者直売など多角的に展開し、都市部でのデータを収集するチャレンジショップ及びアンテナショップとして活用・展開しました。

VII 会館提供・コミュニティー事業（収益事業1）

1 会場提供事業

センター2階施設を地域住民、企業、団体等の会議、研修会、展示会等に貸し出すとともに地域コミュニティーの場として地域活性化の一助としました。

Ⅷ 誘客販売事業（収益事業2）

1 販売事業

来館者等の利便に資するため土産品としてキーホルダー等の販売を行いました

2 たんご朝市の開催

たんご朝市は、開設12年を迎え、地域住民・観光客等から好評を得ており朝市出展者会の協力の下、本年度も引き続き朝市を毎日曜日開催しました。

- (1) たんご朝市春の感謝祭 4月29日開催
アミティ丹後出展者会との共催
- (2) たんご朝市秋の感謝祭 11月4日開催
アミティ丹後出展者会との共催

Ⅸ 需要開拓事業（収益事業3）

1 平成24年度京丹後産品市場開拓トライアル事業

京丹後産品の新たな販売先を首都圏で開拓し販売を試みる中で、産品の市場競争力の強化と販売を継続できる仕組みを構築するとともに、京丹後ブランドの知名度向上を図りました。

Ⅹ 情報収集提供事業（収益事業4）

1 平成24年度農産物クラウドライブラリ化可能性調査事業

農産物の品種・特性・調理方法及び生産履歴等の情報をクラウド上に蓄積し、他生産者及び消費者に対して情報提供する（「農産物クラウドライブラリ」と総称）ことで、消費者から見た農産物の価値が高まること及び生産者同士の情報交換を可能とするパイロットシステムの試験運用を通じて検証し、農産物クラウドライブラリの本格的なサービス展開に向けた基盤整備の可能性及び問題点を明らかにしました。

XI 管理事業

1 理事会の開催

開催日	主な審議内容
平成24年5月29日	○平成23年度事業報告・収支決算について ○第1回評議員会の開催について
平成25年3月21日	○平成25年度事業計画・予算について ○経理規程の改正について ○第2回評議員会の開催について

2 評議員会の開催

開催日	主な審議内容
平成24年6月14日	○会長を定めることについて ○評議員会運営規則の制定について ○平成23年度事業報告・収支決算について ○理事の選任について
平成25年3月28日	○理事の選任について

3 監査会

開催日	内容
平成24年5月21日	○平成22年度事業・決算監査